

いつも 優しく

Always be tender



敬老弁当



敬老弁当(きざみ・ミキサー食)

白馬メディア

行事食



おせち



おせち(きざみ・ミキサー食)



やしうま

城西医療財団の各施設にて
暦の行事にちなんだ行事食を提供しています。
今回は白馬メディアで提供している行事食
をご紹介します。

お知らせ



看護師・准看護師を募集しています。

お問い合わせ先
TEL (0263) 33-6400
E-Mail jim@shironishi.or.jp

人材確保育成室
担当 丸山



白馬メディアでは、毎月1回お楽しみ献立の日を設け、お年寄りに好まれる刺身、天麩羅、その時期ならではの食材や料理を取り入れるなど、季節を感じる事ができる献立にしています。また、施設で行われる夏の“天神原夜まつり”や敬老の日の“敬老おたっしや会”、12月の忘年会等、季節ごとの行事にもご馳走感のある献立で彩りを添えています。

きざみ食やミキサー食の方にも、見た目に差が無いよう盛り付けにも工夫を凝らして、楽しんで食べていただいております。

ご利用者にも年末には杵と臼での餅つきや、施設内に飾る鏡餅の作成。1月は“まゆ玉作り”2月には“やしうま作り”など、様々な郷土行事に参加していただきながら、それに合わせたおやつなども提供し、行事と食のつながりを感じていただけるようになっています。

太陽光発電設備設置事業

城西病院第9ビル屋上に太陽光発電設備を設置しました。
この設備を設置することによって、地球環境の保全に努め、再生可能エネルギーの普及を目指します。
規模は10kwで、その時間の発電量は第7ビルの受付の横にありますモニターよりご確認くださいませ。

本年は、甲申の年である。母が生きていれば94歳になる年である。また、本年11月11日で当法人は130周年を迎えることになる。診療報酬改定の年でもある。

地域包括ケア、地域医療ビジョン構想が本格的に動き出す年である。それらに触れてわが法人の進むべき道について述べる。

診療報酬は、改定率は決まったので2月中旬に出る個別項目(短冊)を見ないと影響は分からないが、急性期7対1に対する報酬引き下げは政策誘導として行われることは確実である。当法人はその影響はないが、回復期及び慢性期の報酬も、在宅復帰率の縛りで減額される影響は出てくると思われる。

精神科領域では、デイケアの利用日数制限が出ることは間違いないであろう。1年超の利用者については週5日の制限が加えられたが、5年を超す場合には週4日以内の利用しか認めないとの方向に行くこととされている。

城西病院の改革は喫緊の課題である。回復期リハビリテーションの45床への増床、精神科急性期治療病棟の開設、デイケアを小規模デイケアにして効率化・活性化を図ると同時に、精神科作業療法の活性化を図る必要がある。メンタルセンター、健康センター、食養部、臨床検査部、外来、事務部の人員配置の見直しによる効率化を図る必要がある。他の少数部署も、職員一人ひとりが収入を上げる方策を実践しなくてはならない。豊科、小倉、白馬、小谷、訪問系それぞれの課題と解決策を自立的に見出し、実践する時である。

地域包括ケアは、高齢者が住み慣れた地域で医療と介護を受け、生活を実現するためのサービスを提供することである。我々には社会福祉法人七つの鐘と合わせて、これに充分応えられるだけの医療・介護・福祉・居住系サービスをすでに持っている。

4月には「認定やまぶきこども園」の開設、6月にはサービス付き高齢者向け住宅「ロビテル一日市場」の開設が予定されている。今年は、連携を密にし、また、院外の病院や施設・機関との連携を図って、効率化を図らなくてはならない。この際、連携の役割はまさに重要である。

地域医療ビジョンは、平成30年を目途に地域の病院の病棟機能分化を図ることが目的である。高度急性期、急性期、回復期、慢性期・在宅の4区分に自院の病床を選択しなくてはならない。県は医療圏域ごとの必要病床数というデータを示して各病院に機能分化を迫ってくるが、長野県はさほどの問題はなさそうである。自院のことは自院の都合で決めればよい。しかし、他院の選択によって影響を受けることは免れない。連携の在り方を見直し、生き残りを図るしかない。

創立130周年を迎えるが、特段の記念行事は予定していない。125周年事業の完成がまだ実現していないからである。業績のV字回復を目指したい。

平成28年 年頭所感

社会医療法人城西医療財団理事長・総長 関 健

「城西医療財団 理念」

私達は、病める人、障害を持つ人にいつも優しく、
最良の医療サービス及び福祉サービスを一体的に提供する。
また、心身の健康保持・増進を志向する人に最良の保健サービスを提供する。
利用者を身体的、精神的、社会的、そして倫理的に診療し、科学的根拠に基づいた治療を行う。

部署紹介

今後も生活を支えるスペシャリストとして、様々な領域で働いていきます。よろしくお願ひします。

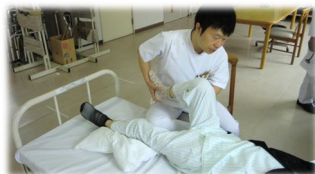
小児科病棟が開設され、発達時期に障害を受けた方への作業療法も増えています。作業療法では個々のこどもさんのもつ発達の課題を検討し、「遊び」という活動を中心に、育つ力を引き出せるように取り組んでいきたいと思っています。

精神障害領域では、精神的な安定を図る、生活リズムを整える、人との関わりをスムーズにするように練習する等を目的として、活動を導入し、生き生きとした生活を取り戻せるように支援しています。

身体障害領域での作業療法では、身体機能・認知機能訓練や、食事やトイレ、家事等の実際の動作訓練、環境調整や道具の作成などを行い、精神的な面も含めて支援しながら対象者の方がより「その人らしい生活」を送れるように取り組んでいます。



城西病院 作業療法部



作業療法部を紹介しました。
当院の作業療法は、精神科にて「作業治療」という呼び名で昔から実施されてきました。作業療法士が入り、精神科作業療法が開始されたのは昭和59年です。
その後平成14年には身体障害の作業療法が開始されました。
作業療法は、作業や活動を通して治療を行います。作業療法における作業・活動とは、生活の中の一つ一つの行為を作業としてとらえ、生活は作業の連続で成り立っているという考えから、その人らしい生活の実現を目指して支援をします。
当院では、入院・外来・デイケアにおいて、身体障害、精神障害、発達障害をカバーする方の作業療法を実施しています。

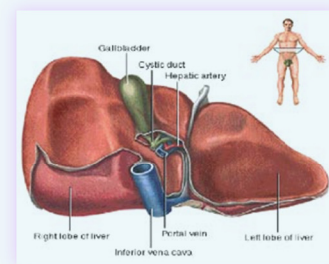
肝臓

連載

城西病院 院長
清澤 研道

chapter 4

ものがたり



内服薬だけでC型肝炎の治療ができるようになりました。

C型肝炎

は我が国の肝臓の最大の原因となるものです。C型肝炎はウイルスの持続感染により感染者の多くが最後は肝臓になってしまう恐ろしい病気です。C型肝炎の治療はここ数年の間に驚くべき進歩があります。今まではインターフェロン注射が治療の中心でした。しかしインターフェロンは発熱、食思不振、うつ、貧血など副作用が多く、つらい治療でした。ですから治療を完結できない人も多くいました。しかも著効率は良くて60%以下でした。ところがここに来て、インターフェロンを使わなくて内服だけで治療することができるようになりました。一般にインターフェロンフリーの治療と言われています。この内服薬はウイルス遺伝子の構造をもとに作られた薬で、肝細胞内でウイルスが増殖するところに直接作用してウイルス合成を阻止するものです。したがって直接作用型抗ウイルス薬と呼ばれています。

最初

に使われたのは2014年9月です。A社から発売された2種類の内服薬が1型C型肝炎につかわれました。24週間の内服で著効率は85%ほどでした。次に出たのは2015年3月からB社からのもので2型C型肝炎に使われました。12週の内服ですみずみ。著効率はほぼ100%です。次いで2015年8月から1型C型肝炎にB社の内服薬がつかわれるようになりました。著効率は95%以上です。さらに12月から1型C型肝炎に対してC社の内服薬（3種類）が使えるようになりました。いずれも12週内服です。著効率はやはり95%です。副作用はかなり少なくなり、なかには全くないひとも多くいます。

問題

は薬に対する耐性ができる場合があることが分かってきたことです。したがってやみくもに治療すればよいというものではありません。いままでもいろいろな薬で治療を受けた人のなかには耐性を持ったウイルスに感染している場合があり、事前に検査をして治療することが勧められています。これからD社、E社からも新しい抗ウイルス薬が発売されるようです。

今、国、県は治療費を助成する制度をつくっています。C型肝炎でお悩みの方はご相談ください。